

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ツインズリハビリ児童発達支援・放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 15日		～ 2026年 3月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 15日		～ 2026年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 15名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	リハビリ専門職による常時対応: リハビリの専門職スタッフ(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・保育士・児童指導員・教員)が毎時間対応しており、より専門的かつ根拠のある療育を提供していること。	それぞれの専門職の中でも月ごとにテーマを決めて、幅広い視点でみれるプログラムを考案し、実施している。また、部署ごとのカンファレンス・全体でのカンファレンスと、情報共有・意見交換を意識してとるようにしている。	支援内容の可視化と共有 自己評価の結果を反映させながら、日々の療育内容がどのように個別支援計画と結びついているかを明確にし、保護者の方々へより分かりやすくお伝えできる体制を整えるように意識する。
2	児童だけでなく、保護者も安心できる場所であれるように心がけている。保護者ともお話しできる機会を毎回設けている。	送迎はあえて保護者で行ってもらっている。そうすることで、毎回保護者とお話できる機会を作っている。療育の内容の目的の説明から、家でもできるような内容の提案、その他おうちや学校の状況を適宜確認して、相談しやすい体制を整えている。	保護者の方々の知識向上につながる研修会の開催や、保護者様同士の交流を深めるための機会の提供を検討。 具体的には、お子さまへの理解をより深め、適切な関わり方を学ぶためのペアレント・プログラムの導入について、今後具体的に検討し、資格取得数を増やしている段階である。
3	情報共有を意識して行うようにしている。	毎日、利用児童の振り返りや、対象児童のカンファレンスを実施している。対面だけのカンファレンスだけでなく、ハグシステムを利用した過去の情報が一覧しやすいことや、チャットワークを利用して児童の新しい情報が入ったときに共有しやすいシステムを構築している。	リハビリ職種は曜日ごとの担当制となっているが、振替利用で異なる曜日に来られるお子さまに対しても、専門的な支援の質が維持できるよう、より丁寧な引き継ぎと情報共有を徹底する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	振替時において、情報共有がされていないと感じさせてしまっていること。	特にリハビリ職種は曜日担当制である。自分の担当の曜日だけでも、人数が多く情報収集にやや時間がかかるような状況。	過去の支援記録から現在の新しい情報までを一元管理し、どの曜日のどのスタッフであっても、リハビリスタッフ同士根拠に基づいた一貫性のある療育を提供できる体制をつくっていく。(事前準備も大変な作業であるため、簡便化して情報共有できるシステムの構築を意識していく)
2	スタッフによって専門性や対応に差異があると感じられる場面がある。	現在、法定研修以外にも、研修にみんなで参加するなど意識的に情報の入手して知識を高めるようにしている。また、日々の振り返りの中でも「あのときどう対応すればよかったか」などをみんなで考えるようにしている。その他、事業所でお金をかけて個々で動画研修が見れるような体制を設けているが、意欲に個人差がある。	日々の振り返りで共有された好事例を言語化し、インプット・アウトプットできる機会をより意識する。新しいスタッフが入った場合も、共有しやすいマニュアルなどを作成するなど。研修で得た知識をミニ勉強会などでアウトプットし、引き続きスタッフ間での視点の統一と組織全体の底上げを図る。
3			